

「第三者評価等のための研究力把握に関する勉強会」における B 班実施報告

作成者： 浅野茂（山形大学）、大野賢一（鳥取大学）

B 班は、以下の方々を対象として、書誌情報データベースやその分析ツールを活用した研究力把握の具体的な手法について議論を行った。

- ① 所属機関が Web of Science 及び InCites Benchmarking を契約しており、InCites Benchmarking のアカウントをお持ち（または当日までに取得できる方）で、かつ、当日ノートパソコンをご持参のうえ、ご自身でログインできる方
- ② 第二期の国立大学法人評価の自己評価書作成に際して、「学部・研究科等の現況調査表(研究)」または「研究業績説明書」のとりまとめを担当されている方（URA として研究業績説明書の作成に関わる予定の方を含む）、もしくは、それらの観点で課題を相談したい公立大学、私立大学の方



当日は大学関係者 9 名のご参加の下、トムソン・ロイター社の担当者 3 名にご協力いただき、総勢 12 名でグループ討議を行った。

グループ討議では、まず国立大学法人評価の「学部・研究科等の現況調査表(研究)」の「分析項目Ⅱ」及び「研究業績説明書」で求められている自己評価書の記載事項を確認した。次に、求められている記載事項に対して、InCites Benchmarking や Web of Science から得られる情報を、どのような操作や手順を通じて得ることができるのか、各種指標の中からどれを選ぶことができるのか、

それらの指標の意味するところはどのようなところにあるのか、といったことについて検討を行った。特に、研究業績説明書を作成するうえで、「SS」と「S」といった代表的な研究成果を選定する際、これらの指標またはデータを選定基準とした場合、これらを根拠として示すことができるのかといった点について、分析ツールを操作しつつ確認を行った。

具体的な検討事項、実際の演習は、以下のとおりである。

○Top 1%、Top10%論文を「SS」と「S」の根拠とすることはできるのか？

→自然科学系分野では、概ね根拠となり得る。しかしながら、人文社会系分野と同様、分野によっては適合しない場合がある。

操作等の補足 InCites Benchmarking 上では、「% Documents in Top 1%」「% Documents in Top 10%」といったように占有率で示されるが、論文当たりの数値は「Percentile in Subject Area」で確認することができる。また、「Category Normalized Citation Impact (CNCI)」は、「Percentile in Subject Area」と正の相関を示す指標であるため、「Percentile in Subject Area」が良い数値を示せば、CNCI も良い数値を示すことになる。例えば、「Times Cited」が非常に少ない論文の場合、その論文の良さを示すには、これら複数の視点 (Percentile や CNCI 等の指標) を用いることで、その良さを補足することができる。

○Impact Factor (IF) を優れた業績の根拠とすることはできるのか？その際、留意する点は何なのか？

→IF＝論文・著者の直接的な評価とはならないが、若い論文でまだ引用が少ないようなケースでは、「その分野で評価の高いジャーナルに認められた」ことが研究の質の高さを示すひとつの判断基準に成り得る。

操作等の補足 InCites Benchmarking 上では、論文が掲載されているジャーナルの IF は「Journal Impact Factor」で確認できる。また、そのジャーナルの IF が占める「Quartile」(四分位) や「JIF Percentile」等を別のインターフェースである「Journal Citation Report (JCR)」で確認し、「その分野で評価の高いジャーナルに認められた」ことを示すことができればなお良い。

これ以外にも、「Immediacy Index」(あるジャーナルにおいて、その年に掲載された論文がいかに多く同年中に引用されているかを示す指数。速報性重視のジャーナルの比較に有用)、「Cited-Half Life」(引用された雑誌がその年に受けた総被引用回数を年度別に遡って、その累計百分比が 50%にあたる年に至るまでを算出。引用論文の新しさの割合、文献が引用され続ける期間の尺度、いわゆるジャーナルの寿命を表わすもの) 等の異なる指標を用いることもできる。

○Highly Cited Paper、Hot Paper を優れた業績の指標として活用できるのか？

→Highly Cited Paper、Hot Paper も指標として活用できる。

操作等の補足 InCites Benchmarking 上では、「Highly Cited Papers」「% Highly Cited Papers」「% Hot Papers」で確認できる。「Highly Cited Papers」は Essential Science Indicator (ESI)基準で導き出した Top 1%論文 (article、review を一緒に計算) を示す指標である。また、「Hot Papers」は直近 2 年以内に発表され、かつ直近 2 か月に急激に引用が上がった論文 (同じく article、review を一緒に計算) であり、注目度が上がったことを示す指数である。双方とも InCites Benchmarking の Top 1%論文と同様、「インパクトのある論文

である」ということを示す指標として活用することができる。

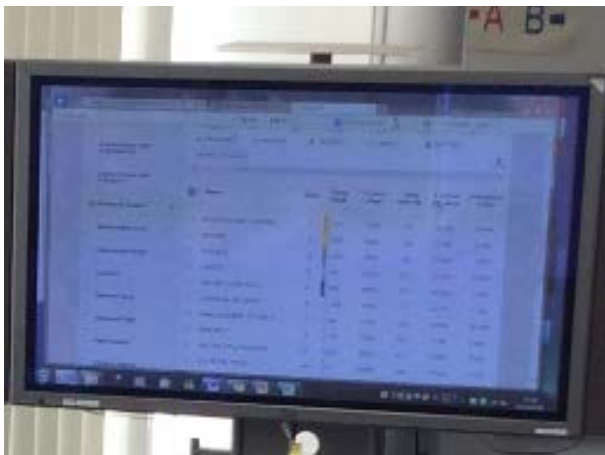
なお、実際の論文は、Web of Science の検索結果が示された画面において、「Highly Cited Papers」はオレンジ色のトロフィーのアイコン（🏆 高被引用文献）で、「Hot Papers」は赤色の炎のアイコン（🔥 ホットペーパー）で表示される。

○公開から日の浅い論文への注目度は、どのように示すことができるのか？

→Web of Science の「利用回数」を活用することが考えられる。

操作等の補足 Web of Science 上で、検索結果が示された画面上段の中ほどに「並び替え」の見出しがあり、そこにプルダウンメニューが表示される。このメニューから「利用回数ー直近 180 日」を選択すると、当該論文の「full paper のダウンロード及び EndNote などへの保存数」をカウントした「利用回数」が表示される。公開間もない論文で、引用される前の「興味・関心」の高まりをみる指標として捉えることができ、まだ若い論文の今後への期待値として考えることができる。

■勉強会を終えての感想及び反省点



InCites Benchmarking で使われている「Top 1%、Top10%」、「Percentile」等を研究業績説明書に「SS」と「S」の根拠として記載することができることを確認した。そのうえで、実際に書誌データベースを操作しながら、どのようにたどり着くことができ、それらをどのように解釈すべきかについても討議することができた。

一方、相対被引用度を示す指標である、トムソン・ロイター社の「Category Normalized Citation Impact」やエルゼビア社の「Field-Weighted Citation Impact」を根拠として用いる場合、補足説明が必要であると考えられる。

研究業績説明書										
法人番号	法人名		学部・研究科等番号	学部・研究科等名						
1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】										
2. 選定した研究業績										
業績 番号	題目 番号	題目名	研究テーマ 及び 要旨【200字以内】	代表的な研究結果 【最大3つまで】						
				a) 著書・発表者等	b) タイトル	c) 発表雑誌・学会等	d) 巻・号	e) 頁	f) 発行・発表年等	
1				(1)						
				(2)						
				(3)						

研究業績説明書の作成において、文系の研究力を示す際、書誌情報データベースだけでは限界がある。そのため、科研費データ、リポジトリのダウンロード数、当該業績へのアクセス数等の他データも確認する必要がある。



今回の勉強会は、書誌データベースの操作を中心としたグループ討議であり、本コンソーシアムとしても初の試みであった。募集時の参加者条件をかなり限定したため、実際に参加された評価担当者は少なく、URAの方の比率が高くなってしまった。その結果、当日の質疑応答では、分析ツールの詳細な使い方に関するものが多くなった。

今後は、Web of Science または InCites Benchmarking の指標の見方、これらを使った選定方法（各大学の事例紹介）といった内容を採用すれば、もう少し評価担当者にもご参加いただけるかもしれない。

謝辞：

グループ討議の進行及び本実施報告書の作成にあたり、トムソン・ロイター社の三輪俊佳様、安藤聡子様、堀切近史様に多大なご協力とご助言等をいただきました。ここに記して感謝の意を示させていただきます。